

## エラストマー・ インフラソリューション部門

創業以来のカーバイドチェーンを活かし、機能性エラストマーや、インフラ強靱化に必要なセメント・特殊混和材、農業向けコルゲート管・肥料など有機から無機までの幅広い技術で人々の安全で安心な生活を支えています。



### 部門長メッセージ

当部門は、世界トップシェアのクロロプレンゴムや、農薬効果も兼ね備えた肥料である石灰窒素を自社水力発電で生産し、またコンクリートを高機能化する特殊混和材、工業炉向け高温断熱耐火素材、農業・土木向け暗渠排水用コルゲート管など、社会インフラの基盤構築に不可欠な材料を広く社会に提供しております。

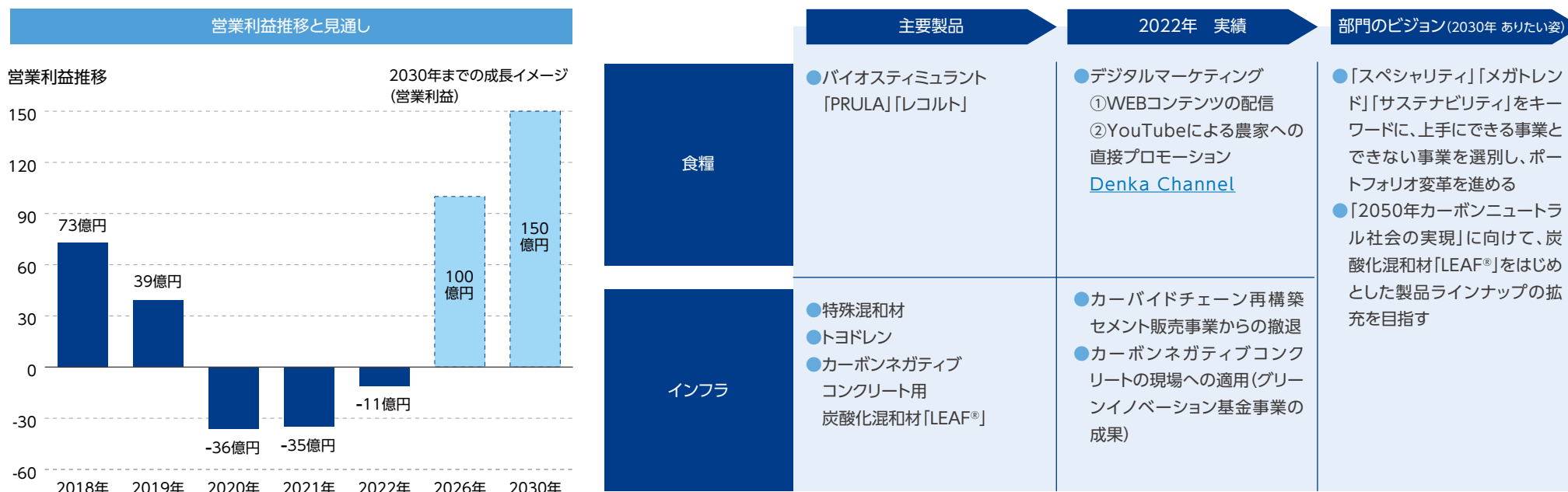
さらに、世界の食糧問題に貢献するバイオスティミュラントの本格展開や環境負荷低減を目指すカーボンネガティブコンクリートの研究開発を進めております。

経営計画「Mission 2030」の注力分野「Sustainable Living」の中核部門として、安全・安心・快適な日々の暮らしの実現を目指してまいります。

執行役員  
エラストマー・インフラソリューション部門長

おまたまさひろ  
**小俣 昌博**

## 経営計画「Mission 2030」の目標達成に向けた戦略



※2026年、2030年の営業利益額の見通しは、ポリマーソリューション部門との合算となります。

## SWOT分析

- CO<sub>2</sub>をコンクリートへ吸収・固定化させる技術
- 日本、アメリカの2拠点において、異なる製法設備を有するクロロプレンゴム事業
- 隣接する石灰石鉱山と自社の水力発電を利用したカーバイドチェーン
- 都市ゴミ・廃プラスチック等の廃棄物を原燃料としてセメントにリサイクルする資源循環システム

強み **S** **O** 機会

- 自然災害被害緩和のための土木構造物強靱化関連需要の増加
- 高度経済成長期に集中的に整備され、一斉に老朽化するインフラ維持更新(リニューアル)需要の増加
- 世界の人口増加に伴う食糧需要の増大に対応するバイオスティミュラント市場の成長

弱み **W** **T** 脅威

- 海外市場におけるブランドネームの浸透(特殊混和材事業)

- カーボンニュートラルに向けた各種環境関連規制の拡大
- 国内の人口減少による建設・農業市場の縮小
- 世界的な原燃料価格の高騰

## 特殊混和材事業

Material/Process Innovation

コンクリート構造物の低炭素化、施工省力化、高機能化、超寿命化等の社会の多様なニーズに応え、確かな技術と豊富な製品群で、国内外の社会インフラの充実に貢献していきます。

高機能性材料

工法・施工システム

調査・診断技術

社会インフラ(コンクリート)

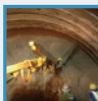
低炭素化  
省力化  
高機能化  
長寿命化

グラウト材

急硬材

補修材

電気化学的補修工法



膨張材

高強度材

急結材

超高強度  
繊維補強  
コンクリート



過去

現在

未来

Technology history

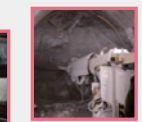
吹付けモルタル  
省力化施工システム



繊維接着  
補強工法



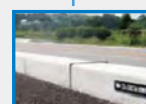
低粉じん  
吹付けシステム



非破壊検査技術



ドローン調査



炭酸化混和材・  
コンクリート



3D  
プリンティング



低環境負荷型  
コンクリート用  
早強材



コンクリート  
施工生産性  
向上用  
凝結促進剤



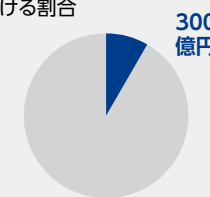
3Dデジタル  
計測

## Sustainable Living 戦略投資

2022年度実績

3億円

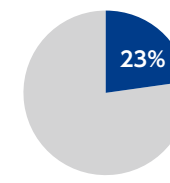
M30 戦略投資(8か年合計)における割合



## エラストマー・インフラソリューション部門 研究開発

2022年度実績

35億円



※戦略投資の割合は、ポリマーソリューション部門との合算となります。

## 事業を通じた社会への貢献

炭酸化混和材「LEAF®」は、化学製品の製造工程で生じる副産物である副生消石灰を原料としており、一般的なセメント製造時と比べてCO<sub>2</sub>排出量を約8割削減することが可能です。また、水と反応せず、優先的にCO<sub>2</sub>と反応して炭酸カルシウムを生成することにより、コンクリートの強度と耐久性を向上させます。CO<sub>2</sub>吸収・固定型コンクリート「CO<sub>2</sub>-SUICOM®」は、「LEAF®」を使用したコンクリート製品であり、脱炭素社会の実現に向けたCO<sub>2</sub>利用技術(CCU)として注目を浴びています。環境負荷低減に対して著しい効果があり、科学技術の進歩に寄与した業績として認められ、2023年5月に第55回 日本化学工業協会 環境技術賞を受賞しました。

